

クリエイター等の活動基盤強化 (相談窓口対応等による支援)

現状・課題

「骨太2023」及び「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023改訂版」では、世界のコンテンツ市場の成長をにらみ、日本の誇る同分野における**クリエイター支援**を推進することとしているところ、クリエイター等が持続可能な形で活動を継続できることが重要。インボイス制度の開始、フリーランス法の施行により事業環境が大きく変わるタイミングであること、また、AIを活用した創作活動の際のAIリスクにも留意する必要があること等を踏まえ、クリエイター等の活動を支えるための取組の充実が急務。

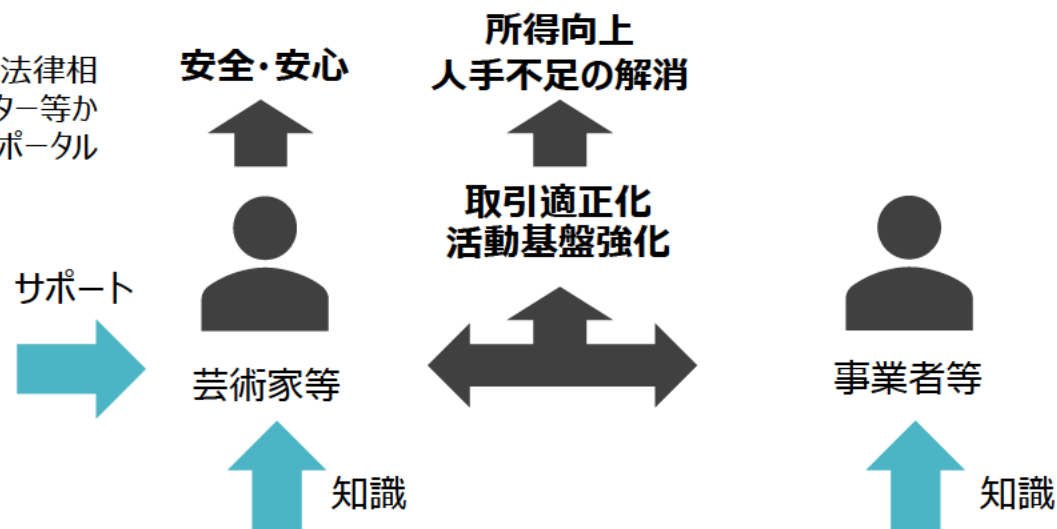
事業内容

令和5年度は9月～12月に開設を予定している「文化芸術活動に関する法律相談窓口」の体制強化により、税務、ハラスメント、AIリスク等も含めてクリエイター等からの相談に対応するほか、文化庁HPについて、クリエイター等への情報提供ポータルサイトとしての機能を充実させ、情報発信の強化を図る。

●文化芸術活動に関する法律相談窓口による対応

- 体制強化により、令和6年1月以降も切れ目なく相談対応を実施
 - ※令和5年10月からのインボイス制度開始
→事業者の立場に立ったきめ細かい対応
 - ※令和5年度中にフリーランス法の下位法令制定
→令和5年度末にかけて周知広報の徹底とともに、対応を促進させる必要
 - ※AIリスクに関する懸念等が増加
→AI時代の創作活動に関する法的な課題等に対応

件数・単価 1箇所×約5900万円 交付先 民間団体等



●ポータルサイトの機能充実、情報発信強化



- アーティスト等への情報提供ポータルサイト
- 「必要な情報」を「わかりやすく」発信

件数・単価 1箇所×約1000万円 交付先 民間団体等

成果イメージ

- クリエイター等が事業者として持続可能な形で活動を継続できるよう、発注側と対等な関係性構築による取引適正化等、活動基盤強化のための取組を実施することで、クリエイター等の所得向上や人手不足解消及び安全・安心な活動環境の確保に資する。